

## ◎タナトリル錠 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】イミダプリル塩酸塩 imidapril hydrochloride 【分類】降圧剤 [ACE阻害剤]

【単位】▼2.5mg・◎5mg・▼10mg/錠

【常用量】5～10mg/日 [1型のDM性腎症には2.5～5mg]

【用法】分1

【透析患者への投与方法】50%に減量するか投与間隔を空けて慎重投与 (1)

【その他の報告】2.5mgから開始し、5mg/日 (5) 尿中から未変化体として排泄されるが減量しなくても顕著な副作用は現れにくく、最大10mg/日まで許容できる (5)

【保存期CKD患者への投与方法】Ccr10mL/min以上：減量の必要なし、Ccr<10mL/min：5mg/日 (5)

【その他の報告】高度腎障害患者では腎機能正常者に比べてイミダプリルおよびイミダプリラートのCmax、AUCが有意に高く、高度腎障害患者では最小用量に設定すべきである (Hoogkamer JF, et al: Eur J Clin Pharmacol 54: 59-61, 1998) Ccr 30mL/min以下またはScr 3mg/dL以上の患者では50%に減量するか投与間隔を空けて慎重投与 (1)

【特徴】経口投与後加水分解され活性代謝物となり、これがACEを阻害する。副作用の咳が少ないとされている。

【主な副作用・毒性】血管浮腫、空咳、急性腎障害、AST・ALT上昇、高K血症、味覚障害など

【吸収】25%以上 (1)

【F】62% [ラット] (Yamada Y, et al: Arzneimittelforschung 42: 457-65, 1992) 25%以上 (1)

【tmax】7.3±0.4hr (1) 2hr (弘田雄三, 他: 臨床医薬 8: 507-22, 1992) イミダプリラート: 5～6hr (Dolezal T: J Renin Angiotensin Aldosterone Syst 7:146-54, 2006)

【代謝】肝でジアシド体であるイミダプリラートになる (三木秀生, 他: 臨床と研究 73: 2424-2429, 1996) 肝障害があっても活性体への変換はほとんど障害されない (Hoogkamer JF, et al: Eur J Clin Pharmacol 51: 489-91, 1997) イミダプリラート以外の代謝物には活性がない (1)

【排泄】尿中総排泄率25.5% [24hrまで] (1) 尿中回収率70% [ラット, 96hrまで] (1)

【t1/2】イミダプリル 1.8±0.1hr, イミダプリラート 8.2±1.4hr (1) 2.1～3.3hr 活性代謝物 12～13.5hr (鈴木伸: 臨床と研究 69: 636-48, 1992) イミダプリル 1.1-2.5hr, イミダプリラート 10-19hr (Dolezal T: J Renin Angiotensin Aldosterone Syst 7:146-54, 2006)

【蛋白結合率】イミダプリル85%, イミダプリラート51% (1)

【Vd】資料なし (1)

【MW】441.91

【透析性】4時間透析でのイミダプリラートの除去率65% (三木秀生, 他: 臨床と研究 73: 2424-2429, 1996) イミダプリラートのHDクリアランスは19.0±7.8mL/min/m<sup>2</sup>膜面積であり、エナラプリラートの1/2程度である (Tsuruoka S, et al: J Clin Pharmacol 47: 259-63, 2007)

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない (5)

【O/W係数】0.01 [酢酸エチル/pH6.8] (1) 【pKa】5.23 (1)

【相互作用】リチウムとの併用で腎尿細管におけるリチウムの再吸収を促進し、リチウム中毒を生じることがある (1) DM患者ではアリスキレンとの併用禁忌 (1) eGFR 60mL/min/1.73m<sup>2</sup>未満の患者ではアリスキレンとの併用は避ける (1)

【最大効果発現時間】3hr

【効果持続時間】24hr (鈴木伸: 臨床と研究 69: 636-48, 1992)

【備考】心不全治療にも有用であると思われる (Dolezal T: J Renin Angiotensin Aldosterone Syst 7:146-54, 2006)

【更新日】20180407

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。